

パネルディスカッション

自治体評価の 質の向上のために

新潟大学教授 南島和久

najima@jura.niigata-u.ac.jp

X市の文化行政の評価

- X市には「劇場」がある。
- この「劇場」は市長のリーダーシップの下、市民参加や専門家の知見をふまえて建設された。
- この「劇場」は専門的知見をもつNPO＝指定管理者に委託している。



- この「劇場」をどのような視点で評価すべきか？

評価の視点

- 「劇場」評価のために考えられる指標

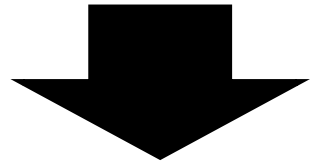


入場・利用者・来館者数、ボランティア登録数、
利用率・稼働率、満足度アンケート、
事業実施の実績（公演、アウトリーチなど）、
指定管理者の経営状況、施設の収支など

指標の問題

- 疑問①

そもそも適切な指標とはどのようなものか？
「劇場」を適切に評価する手法はないのか？



評価に十分な人手・時間を割く余裕はない。

効果の問題

- 疑問②

「劇場」の効果は短期間では把握できない。
どのようにしたら効果を把握できるのか？

社会的インパクト評価（？）

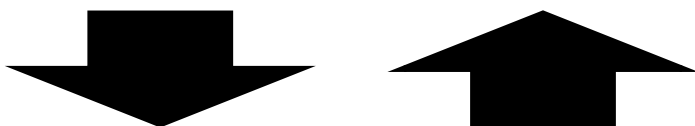


評価に十分な人手・時間を割く余裕はない。

組織の問題

- 疑問③

各部局から「評価疲れ」がいわれるところ、
「総合計画の進捗管理」「担当部局の評価」
「事務事業評価」「指定管理者評価」など
を一元化し、統合できないか？



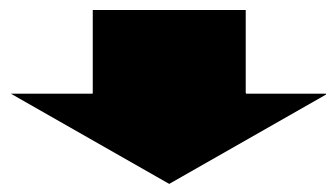
「企画立案」と「政策実施」の統合？

循環する疑問

「適切な指標や評価手法が分からない」

「評価に必要な人手、時間を割けない」

「評価を一元化して手間をはぶきたい」



「単一の標準化された評価手法」
があればよいのだが・・・

政策の多元重層性

教育委員会

首長部局

企画立案

教育と文化

まちづくり

政策実施

教育面への
波及効果

まちづくり
への影響

そもそも「劇場」は何のためにあるか？

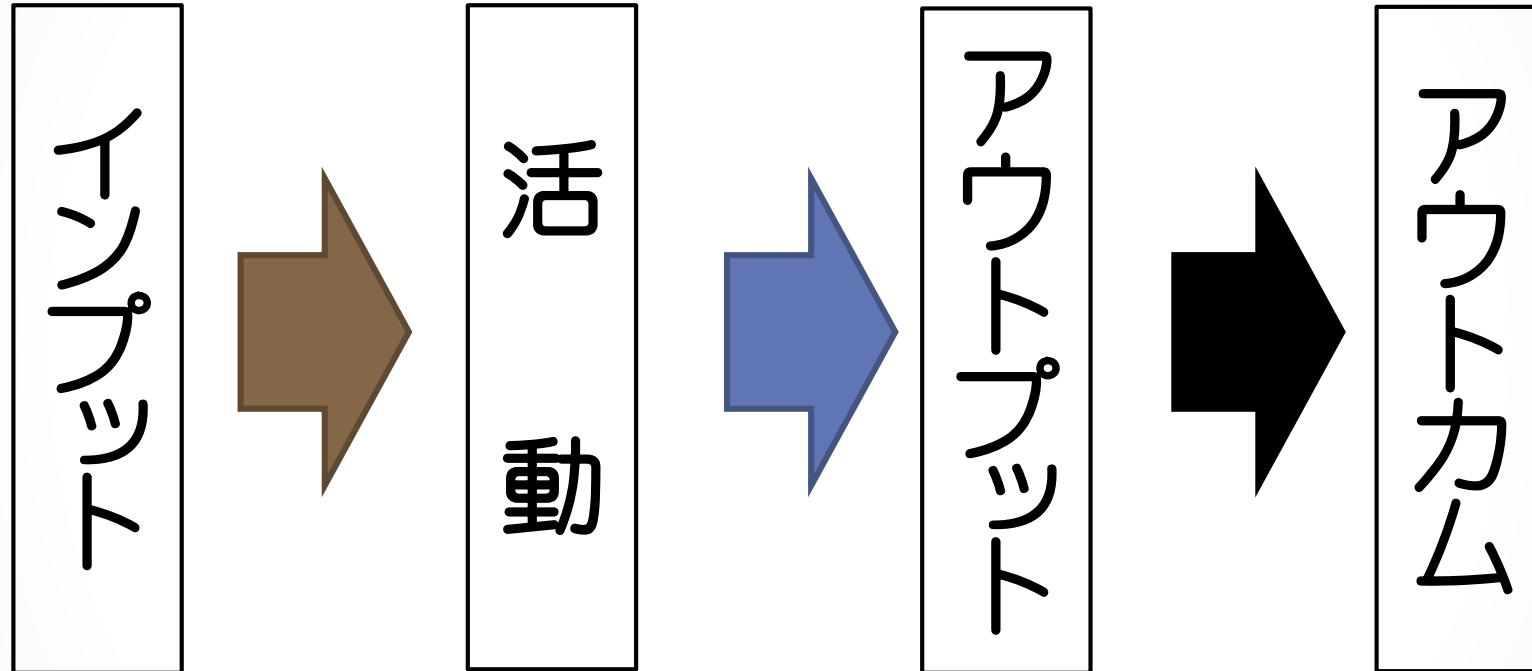
- 政策目的は明確に定義されているか？

⇒曖昧なのは「評価手法」ではなく、
「劇場」のコンセプト（企画）ではないか？

- 「業績測定」（目標管理型評価）の注意点

⇒「共有可能なコンセプト」が明確となっ
てはじめて道具としての意味がある（！）

「共有可能なコンセプト」



ロジックモデル = プログラム

補遺

- 本資料の出典は、日本都市センターの以下の報告書である。

日本都市センター編『都市自治体の文化芸術ガバナンスと公民連携』（2018年）。

本報告書の各章の内容は以下の通りである。本報告はこのうち、第9章、第12章に基づいている。

第1章 都市自治体の文化芸術と公民連携（大杉覚）

第2章 文化芸術分野における「物と人の混合」－公の施設の指定管理をめぐる公民連携・公民切断の効用と課題－
（金井利之）

第3章 文化芸術分野における公民連携の現状（西村弥）

第4章 文化芸術振興における自治体行政と住民の関係（遠藤文彦、三好久美子）

第5章 文化芸術振興における自治体行政と民間の関係－三重県津市と静岡県掛川市を事例に－（松本茂章）

第6章 文化芸術振興における自治体行政と外郭団体との連携（田中文子、三好久美子）

第7章 自治体行政直営の文化施設運営と専門性の確保－いわき市及び西尾市の取組み－（三好久美子）

第8章 文化芸術分野における都市自治体の役割－公民連携を推進するための組織・人員体制－（大谷基道）

第9章 文化芸術分野における公民連携と評価（南島和久）

第10章 文化政策の今後と公民連携（工藤裕子）

第11章 フランス地方都市自治体の文化政策（長嶋由紀子）

第12章 都市自治体の公民連携（文化・芸術振興）に関するアンケート集計結果（三好久美子）